

特集1

新生! 図書館

4月1日に、長崎大学附属図書館がリニューアルオープンしました。学生も一般の方も、さあ、新しい図書館に出かけましょう!

長崎大学附属図書館がOPEN!





新図書館長

森 望

待ちに待った
新しい附属図書館が
完成しました!
一年間の改修工事を経て
姿を現したのは
地下一階、地上三階の
ガラス張りの建築物。
文教キャンパスの
新しいランドマークとして
内外の注目を
一身に浴びています

知の貯蔵庫から さらに踏みこんで センスを磨く空間として

学生はもとより 一般の方にも 使ってほしい

この四月から新しく図書館長に就任された森望先生にお話を聞きました。

「どうですか、明るいですか? 地上三階はガラス張り。窓を大きく取っているので、光を取り込んでかなり気持ちのいい空間になりました。これまで一年間不便をかけていた学生たちはもちろん、新入生の皆さんにも十分に使ってほしいですね。」
やはり大学には質のよい図書館が欠かせません。こうしてみると存在感は大きいですね。
「はい。大学にとって図書館は知の宝庫、貯蔵庫。もちろん昔から本で勉強をするということは基本としてありました。しかし、今では情報拠点としての役割も大きいですね。現代は誰もがパソコンやスマートフォンなどを身近に抱えながら、ネットベースで世界の情報にもアクセスしていますね。しかし、現実には玉石混濁の情報が氾濫しています。そんななかで質のいいものをどう選んでいくか。こ

れを教員の見識で教えていかなければいけません。例えば、世界の大学の公開サイトの利用方法など、大学の図書館で教えられることは多いと思います。」

今回のリニューアル、特にポイントは何ですか?

「いくつか特徴的なことをいえば、まず、一階にラーニングコモンズという学生たちがディスカッションのできるスペースを作ったこと。これは二、三階の自学スペースとは趣きが異なります。ここでどんな議論をしてほしいですね。哲学でもそうですが、そもそも対話をすることで啓発的なものが得られます。一対一では行き戻りの単純な動きですが、三人以上になると議論は『まわる』、つまり相乗効果が出てくるのです。これは『おしゃべり』とは違いますよ。何が勉強を深めていくのか、高い意識を持つてほしいですね。」
一般の方の利用もできるんですか?

「はい、カウンターで手続きをさせていただければ、館内はご利用できますし、今回新しく作ったギャラリーの企画展なども観ていただけます。長大の図書館

が一般利用できることをあまり知られていないようなので、リニューアルを機に足をお運びいただきたいですね。地域に開かれる大学の突破口になれば、と思っています。ただ試験前などは学生優先とさせていただきますのでご了承ください。公立の図書館とは違い、大学の図書館はあくまで学生のためにあるというのが基本姿勢です。」

これまでは試験前など、ギチギチの大混雑でした。

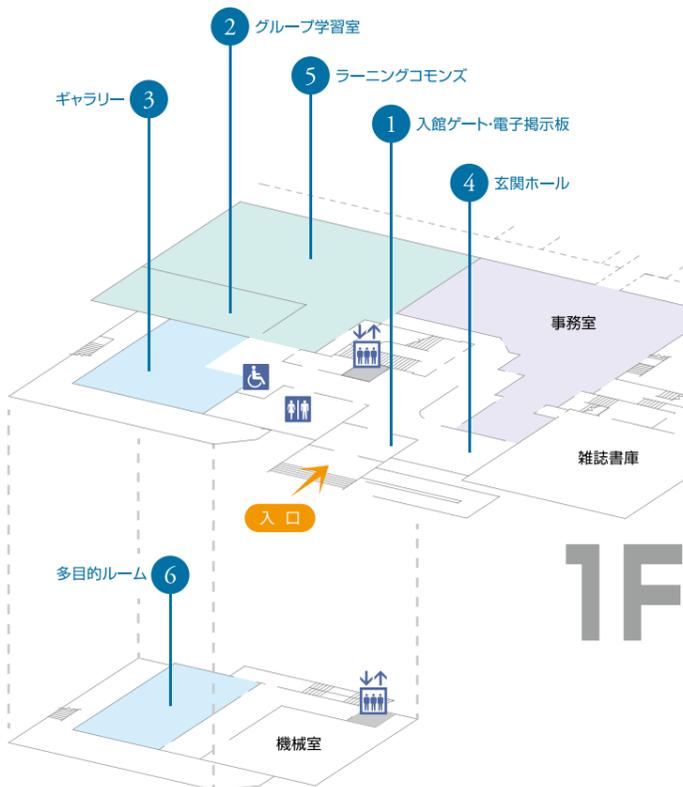
「席数は一〇〇席増やしました。そのぶん会議室や館長室は狭くなりましたが(笑)」。

答えのある 問いだけを 解くのではなく

「館内には、大学の勉強に必要な本はもちろん、専門書のほかに教養教育に使われるさまざまなジャンルの本もしっかり揃えています。成長期に本を読み、情報を仕入れて自分を変革していくてほしいですね。私は常々不思議に思っていることがあります。自身が理系なので、当然理系の本は読むのですが、真実

が書いてあってもそれに感動することはあまりない。しかし文学などは必ずしも正解があるとは限らないのに、その世界に夢中で没頭することもあります。一方、学生は学校で正解のある問いばかりを解いている。ところが、大学を卒業して社会に出れば、まさに正解のない世界で生きていくわけで、まず「何が問題なのか」を見つけられる人間になることを求められる。問題解決能力も必要ですが、問題を発見する能力、それはクリエイティブティイ創造と、イメージネーション想像。この二つの力を、若いときに磨くことこそが大切なのではないでしょうか。大学の知、図書館を、そのセンスを磨くことに使ってほしいのです。これからの図書館は『知の貯蔵庫』からより広く脱皮する必要があります。目指すのは『知・学・創・遊』。多少の遊び心を持ちながら未来にチャレンジする叡智を育む空間でありたいですね。」

もりのぞむ
昭和28年、諫早市生まれ。東京大学薬学部卒業。同大学院から東邦大学助手のち昭和59年に渡米。南カリフォルニア大学助教授等を経て10年後帰国。平成16年より長崎大学医学部教授。平成25年4月より長崎大学附属図書館館長。



玄関ホール

玄関を入ると、右手には新聞を読んだり、待ち合わせにも便利なオープンスペース。



ギャラリー

常設コーナーでは古写真や「グラバー図譜」を展示。また企画展として、5月上旬までは井川惺亮名誉教授の現代絵画展を開催。その後も書道展などを予定しています。

え! 図書館なのに
ギャラリーや
議論のできる場所?

1階と地下1階は、あれこれ使える共有スペースがたっぷり。プレゼンテーションの練習やディスカッションにおおいに活用してください。使い勝手のよい多目的ルームもありますよ。

6 多目的ルーム

会議のほか、モデル授業やイベントなど、使い方はアイデア次第。



5 ラーニングcommons

お互い議論し合う空間。ここにはシラバスに出てくるテキストやDVDも並びます。以前からあるメディアルームのほか、ここにもパソコンスペースができました。

1 入館ゲートにある電子掲示板

玄関を入ってすぐのゲート。一般の方もカウンターで手続きをしていただければ、ゲートを通れます。館内の情報が提示される電子掲示板(写真左上)でまず最新情報をチェック。



2 グループ学習室

プレゼンテーションの練習にぴったりなのがこのグループ学習室。大小2部屋あります。



長崎大学文教キャンパス内
TEL.095-819-2193
<http://www.lb.nagasaki-u.ac.jp/>

そして、地下一階に新しくできたのが多目的ルーム。講義や会議はもちろん、上映会やミニコンサートなども催せる使い勝手のよい空間です。以前の図書館は古く、大雨の際は地階が浸水するなどの問題もあったのですが、リニューアルで防水工事

多目的ルーム

いろいろ使える
学生同士が共有しながらディスカッションや共同プレゼンテーションなどをする場として利用してほしいですね。ここには、各科目のシラバス(学習計画)に沿った書籍を手に取りやすいようディスプレイしています。「このラーニングcommonsには、学生のボランティアスタッフが常駐し、アドバイスができるような体制を整える予定です」と姫野先生(詳しくは図書館のHPにて)。右も左もわからない新入生には心強い味方になりそうです。

一階は人が集まる
commons 共有空間
まず変わったのは、入口が二階から一階になったこと。前面がガラス張りです。光が差し込む明るいエントランスになっています。もちろんスロープ付きでバリアフリー仕様。「図書館は敷居が高くて入りにくい」なんて、もう言わせません。かつて一階と二階に分かれていた事務室機能も一階に集約、スタッフや利用者の利便性も向上しました。ゲートがあります。長大生ならば学生証で通過でき、一般の方でもカウンターで手続きをしていただければ、入れます(登録申請すれば利用者証も発行されます)。ゲートを入ると左側には新しくギャラリーが誕生。古写真や「グラバー図譜」などの常設展のほか、折々変わる企画展が予定されています。さらに進んでみましょう。細い通路を左に抜けるとテーブルとイスが並ぶ大きな空間が。これがこの新しい図書館の目玉ともいえる、ラーニングcommons。図書館のリニューアルに尽力した姫野前図書館長にもお聞きしました。「今、大学では、教わるというより、自ら学ぶ自学自習に変わりつつあります。ラーニングcommonsのcommonsとは共有空間という意味。

じっくり閲覧、深く学習 古写真もここで保存

読書や学習に集中できる広い閲覧室が自慢の2階、3階。世界中から注目されている古写真コレクションや日蘭交流史の貴重資料など、長崎大学の大切な財産もここに収蔵されています。

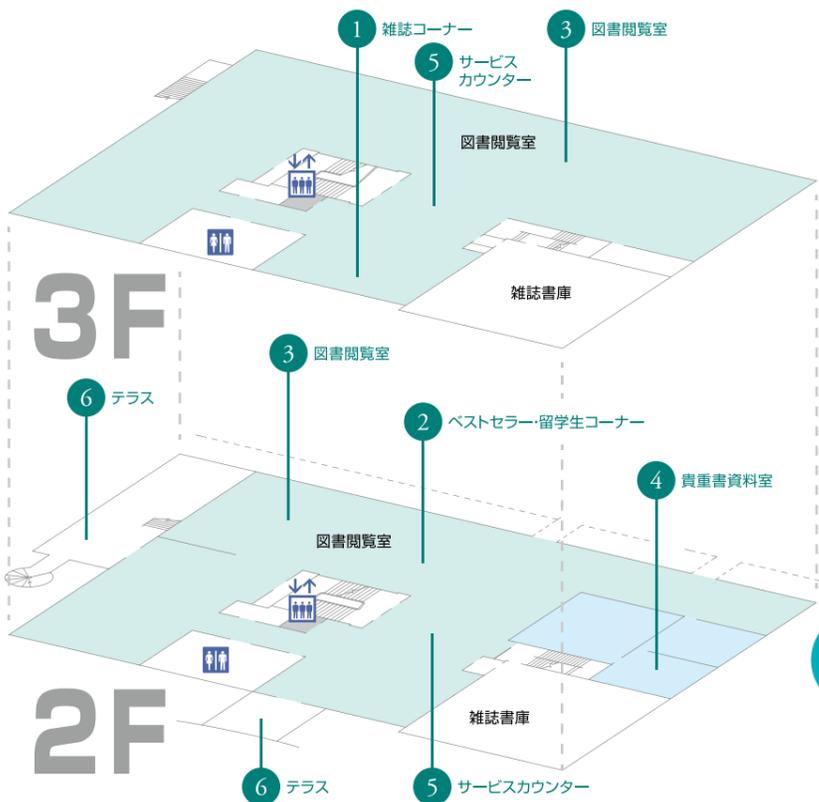


テラスの光で明るい書架。



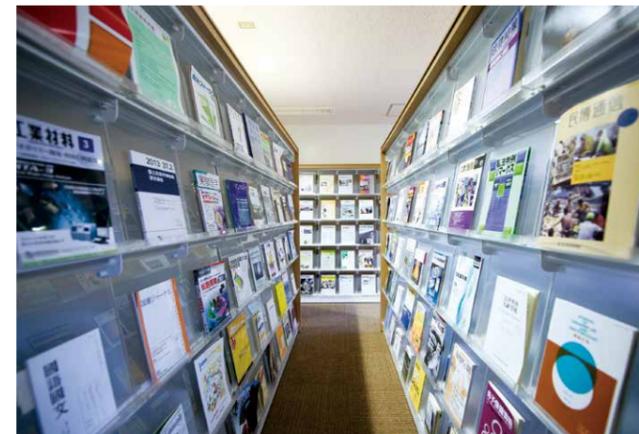
3 図書閲覧室

テーブルタイプのほか、窓に向かったカウンタータイプも。肘が隣の人にぶつからないゆったりしたレイアウト。



1 雑誌コーナー

3Fの雑誌コーナーには学術雑誌を配架しています。1Fには気軽に読める軽雑誌(一般雑誌)、2Fには長大関係の資料を配架しているコーナーもあります。



2

ベストセラー・留学生コーナー

2Fには、新刊や旅行ガイドブックなどのベストセラー、留学生のための日本語学習テキストなど、コーナー別に並んでいます。

6 テラス

新しく生まれた空間で、光が降り注ぐ木々が目の前に。



5 サービスカウンター

各階には気軽に相談できる浮島のようなカウンターが出現。資料探してわからないことは、職員がパソコンを使いながらしっかりナビゲートしてくれます(右は学術情報サービス課の山本知美さん)。



4

長崎医学校(長崎大学医学部の前身)の学生たち



長崎の病院(長崎大学病院の前身)



貴重書資料室

幕末・明治期日本古写真コレクション等の保存及び閲覧室。昨年購入したオランダ人医師マンズフェルトの画像データも興味深いものです。近代医学校成立時のようすがよくわかります。

一〇〇席増えて 読書にも集中

二階・三階はと言えば、一階とは打って変わって、静かな環境の閲覧室が設けられています。席も一〇〇席増え、イスとイスの間隔もゆったりめ。読書や学習に集中できそうです。そして、ここにもひと工夫。フロアの真ん中にはスタッフが常駐するコーナーが設けられるのです。「館全体でサービス機能を強化します。例えば知りたいことをどう調べたいかわからない、パソコンの操作に自信がないといった学生に対して、情報提供できるアイランド機能、サービスの浮島のようなイメージですね。」

昨年度から始まった教養教育の全学モジュール(テーマごとに授業科目をひとまとまりにしたもの)制に対応して、広い対象分野でもテキストや関連図書が探しやすいよう配慮されています。

うれしいのが二階に二カ所のテラスが新設されたこと。読書に疲れたらちよっと息抜きできるベンチもあります。キャンパスの緑を活かした、リラックス空間が誕生しました。

古写真コレクション、 日蘭文庫等の 貴重資料

長大図書館といえば、古写真のコレクションが全国的に有名。現在所蔵している「幕末・明治期日本古写真」のうち六七七八点はデジタル画像としてデータベース化されています。海外をふくめ二三四万件以上のアクセスがあり、テレビや雑誌への資料提供でもおなじみです。研究者が予約すれば閲覧できるスペースも二階に設けられました。そんな貴重資料を大切に保管し、温湿度管理機能も万全の資料室が整備されました。

新しいニュースもあります。「昨年、解散した日蘭学会から日蘭の交流史に関する貴重な資料やフリス元オランダ大使のコレクションなどがこの図書館に寄贈されました。整理にはこれから数年かかりそうですが、適切な環境で保存されることは長崎と長崎大学にとって大変意義があります」

いかがですか? 新しくなった図書館が、これからの長崎大学のシンボルになりそうです。ぜひ足を運んで、使ってみてください。